

# 愛道

あいどう



テーマ 「前進」

社会福祉法人足羽福祉会  
<http://www.asuwafukushikai.jp>

# 新年のごあいさつ



社会福祉法人 足羽福祉会  
理事長 **高村昌裕**

新年あけましておめでとーございます。

昨年皆様には大変お世話になりました。

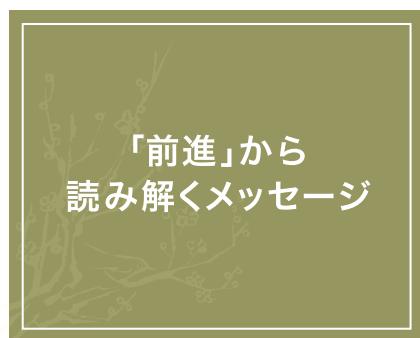
さて足羽福祉会では、法人内の事業所間で利用者の方の交流事業を年に7、8回行っております。春の花見や七夕、芋掘りといった季節に応じた交流もあれば、毎年10月に福井市東体育館にて300名以上が集まり『合同レクリエーション』というイベントも行っています。さらに昨年は11月に、利用者の方それぞれの出し物を披露し合い、みんなで楽しもうという趣旨で『交流発表会』を職員研修センター（足羽利生苑2階）にて行いました。

足羽更生園の皆さんが見せてくれた習字やちぎり絵、折り紙の作品に、保育園児

やお年寄りの方々から「へえ〜」「すごいなあ」という声が聞かれ、足羽ワークセンターの利用者の方がカラオケを熱唱すれば、保育園児が握手を求め、さながら歌謡ショーのような盛り上がりになりました。そして鳴子を使つての体操やヨサコイでは、元気に飛び跳ねる園児たちに刺激されて、会場が暑くなるくらい皆さんで楽しく踊りました。踊り終わった後も、お年寄りの方が障がいのある方の繰り返す話をうなずきながら聞いてくださったり、皆さんでハイタッチをしてお別れしたりと、素晴らしい交流の機会になったのだと感激しました。

施設という場所は、どうしても同じ世代、同じニーズの方々が利用される特徴がありますが、交流事業においてさまざまな世代、さまざまなニーズの方々が共に集い、楽しむことで何か心がホッと温まる気がしました。皆が助け合う、そして支え合う福祉社会を目指して、こうした取り組みを今後とも地域の皆様方と一緒に取り組んでいきたいと強く願っています。

今号のテーマ『前進』について、それぞれの施設長が述べておりますように、各施設が一致団結して皆様に必要とされ、喜ばれる足羽福祉会であるよう頑張ります。どうかよろしくお願いいたします。



多くの子どもがいても、一人ひとりの子とじっくり向き合うことを大切にしています。その姿を、多くの子ども達が見て、会話を聴いて、さまざまなことを感じ、みんなの学びとなつていきます。

今年も、一人のかかわりを『集団の前進に！』

足羽東保育園

園長 **矢納ともえ**

「幸せは歩いてこない、だから歩いて行くんだよ」♪  
365歩のマーチのように、明るく元気に、利用者の方や職員みんなで前進する年にしたいです。

足羽学園・足羽更生園

園長 **高村昌裕**

『人』の文字は、天を仰ぎ偉大なる存在に誓い、大地にしっかりと足をふん張り、今から成すべき事を決意する姿のこと。  
利己を超え夢と現実の調和を図り、道を開く！

足羽ワークセンター

園長 **大館嘉昭**

昨年は高村理事長のもと、社会福祉充実のため新たな一歩を歩みだした年でした。今年度も歩みを止めることなく、信頼される福祉を目指し精一杯前進を重ねていく所存です。

愛全園

園長 **滝波正興**

前進とは、事が良い方向に動くよう、気概と希望を持つことが大切です。

日々前進しようといメージしながら、行動を起し小さな成功を積み重ね、自分を進化させたいと思います。

足羽利生苑

苑長 **岩本昌雄**



平成22年度 ～足羽福祉会～

# レクリエーション交流



合同レクリエーション 10月16日(土)



集い! 走り! 踊り! 歌う!  
手が、足が、体が心が  
自然に動く心地よさを  
実感。



芋掘り交流 10月19日(火)



土の中からは、ミミズに  
ダンゴ虫…。  
自然いっぱい、元気いっぱい、  
おなかもいっぱい。



交流発表会 11月17日(水)



練習の成果をみんなで  
「いち・に・さん」  
小さな会場は、熱気で大きな  
コンサート会場に変身!



## 目次 もくじ

- 2 新年のごあいさつ
- 3 レクリエーション交流
- 4 子どもたちを前進させたもの ----- 足羽東保育園
- 6 最善の支援とは ----- 足羽学園  
～成長にあわせた支援～
- 8 二人三脚 ----- 足羽更生園  
～これからも共に歩んで～
- 10 新しい環境の中で得るもの ----- 足羽ワークセンター  
～Aさんの日常を通じて～
- 12 いくつになっても前向きに ----- 愛全園  
～今日がいちばん若い日～
- 14 今までの暮らしをこれからも ----- 足羽利生苑  
～あなたらしい心地よい暮らしとは～
- 16 愛のささえ



### 「表紙について」

写真は、足羽福祉会 6 施設の利  
用者の皆さんです。

この豊かな表情やしぐさがあ  
ふれる施設づくりを目指して、  
職員一同「前進」してまいります。

(足羽福祉会 法人本部 江守)

# 子どもたちを前進させたもの

保育をしていると、子どもの行動や成長にハッとする瞬間があります。

初めての寝返り、初めてのハイハイ、初めての歩行、初めてのことば…と、そのシーンに出会うたびに感動し、喜びや時には学びも与えてくれます。



## 初めての一步

(体の成長)

1歳1ヶ月で入園したKちゃん

は、1歳6ヶ月になっても

歩く様子が見られず、ハイハイ

や、つかまり立ちでの生活

が続いていました。お母様は、

周りの子が歩く姿を見て不安

を感じられ、相談に来られた

こともありました。発達には

個人差があること、保育園

では歩行に結び付くよう、筋

力をつける運動遊びを多く

取り入れていることを伝え、

保育園と家庭で連携をとり

ながら、一緒にKちゃんの発

達を見守っていきました。

1歳8ヶ月を過ぎたある

日のこと、床から手を離し、

ゆつくり立ち上がったのです。

その様子を見ていた私は、少

し離れた所から両手を広げ「ヨ

イ、ヨイ。」と声をかけると、

何度も失敗を繰り返しながら

らも『初めての一步』を踏み

出したのです。保育士みんな

で「すごいね、歩けたね。」

と褒めると、うれしそうに照

れ笑うKちゃん。その姿

はとても立派に見えました。

お母様からも「歩けたんで

す！何か心の変化があった

のでしょうか？」と喜びの声

が聞かれました。

Kちゃんの歩行に関して

不安を感じながらも、我が子

を信じて、待ち続けてこられ

たお母様や、保育援助の工夫

など、いろんなきっかけがK

ちゃんを一步前進させたよ

うです。

## 自我の芽生え

(心の成長)

4ヶ月で入園したAちゃん

はとてもおとなしく、ミル

クもよく飲み、よく寝て、お

母様も「手のかからない子で

す。」と話すほどでした。

入園した時期も早く、誰よ

りも保育士と過ごしている

期間が長いはずなのに、保育

士に甘えることがあまりなく、

私たちのかわりが薄いのは？

と不安を感じ始めまし

た。担任同士で意図的にふ

れあいを多くとろうと話し

合い、抱っこをたくさんし、

毎日、肌と肌のふれあいを続

けました。そうしていくうち

に、抱っこをすると、とても

喜びうれしそうに笑うよう

になりました。また、少しず

つですが、自ら甘えてくるよ

うにもなりました。

1歳3ヶ月のころには歩

けるようになり、行動も活発

で、欲求を身ぶりや声で伝え

てくるようにもなりました。

ある日、外遊びから部屋に

戻るときのこと。「給食食べ

るから、お部屋に入ろうね。」

と手を握り、入ろうとした瞬

間「ギャ〜」と大声で泣き出

したのです。抱っこしよう

しても嫌がり、反り返って大

泣きするAちゃん。初めての

自己主張でした。「もつと遊



毎日生き生きとした表情で遊ばれています。



びたかつたんやね。ならもう少しだけすべり台してからお部屋に入ろうね。」と気持ちよくんであげると、納得したように笑顔になりました。Aちゃんとのふれあいを深め、思いを受容していくことで信頼関係ができました。そこからAちゃんは、自分の気持ちを思いきり出すことができるようになり『自我』という形となって心が育っていききました。

この他にも数え切れないほどたくさんの成長があり、その一瞬一瞬の喜びや感動を、子どもたちや保護者の方と共に味わってきました。

そんな日々の中、悩んだり、行き詰まったりすることもありました。子どもたちの成長からは、とても強いエネルギーを感じ、この子たちの、より健やかな育ちのために、自分もがんばらなければと励まされ、前に進む力を与えられました。

生きていくための基礎を培う大切な乳児期。その時期に携わることができ、共に成長していけることはとても素敵なことだと実感しています。

これからも、一人ひとりに応じたかわりを大切にしながら、温かい愛情を注ぎ、心と体の前進へとつなげていきたいと思っています。

足羽東保育園

保育士 大島直子

子育てをしていると、思わず笑ってしまうような、かわいい場面を見ることもできます。こんな姿も、成長してきている証ですね。

（嗅覚の発達） 1歳

★ 園庭に散歩に出かけた時のこと。栽培しているトマトの葉っぱを近づけたところ、思わず身をよじるDちゃん。実はトマトが苦手です。

（思いやり） 1歳2ヶ月

★ 泣いていた子がいたので、その子の横にいたAちゃんに「なでなでしてあげて」と言っていると、自分の頭をなでなでしていました。

（友だちのかかわり）

1歳3ヶ月

★ お友だちにおもちゃを渡していたEちゃん。「あーとっ」と言って、自分の頭をペコペコ下げお礼をしていました。

## みんなの広場

5歳児が2人一組になり、新年のカルタを作りました。頭文字にちなんだ絵も2人で考えました。「あけまして…」



おもち

「網で焼いたみたい、焼き色つけてみた！」



めんどり

「本物そっくりに書きたくて、図鑑で調べたよ。」



ディノスクスワニ

「電話、電池、電気がうう～ん…。よし！これに決めた。」  
(本で調べました)



とら

「とらの模様ってこんなかな？お顔がポイント。」



うさぎ

「うさぎと虫って仲良しでしょ。」  
**今年の干支は私**

# 最善の支援とは

## 成長にあわせた支援

「知的障がい」の中には、一言で片付けられないほど、さまざまな障がいがあります。

またそこには、それぞれの利用者の方の個性もさまざまに織り込まれます。

私たち職員は、障がいの特性や個性に合わせた支援を心がけ、利用者の方々が日々の生活を安心して過ごせるように支援をしています。

しかし偏った見方ばかりでは本来の利用者の方の「力」を見失っている可能性があるかと、気付かされた事例を紹介します。

### 考えた支援のほず…

Mさんは、足羽学園に入所され5年、養護学校に通う中学部2年生の14歳です。

Mさんの過去



Mさんが以前食事をとっていたスペース

Mさんは、周囲の人の動きなどで食事に集中することが難しく、とても時間がかかっていました。

また、好き嫌いが多く、苦手なものを食べるのに時間がかかっていたことも一つの原因でした。そこで、少しでも食事に集

中できるように、本人の普段の状況を基に、職員間で知恵を出し合って支援内容を決めました。

#### 食事に集中できるように…

●他の利用者の方から少し離れた場所に一人掛けの机を用意し、窓ガラスに向かっ

て食事を摂っていた。

●背面についたてを置き、後ろを振り向いても他の利用者の方が気にならないようにする。

●好きなおかずを目標に、苦手なおかずを先に食べていただく。

その支援がその人であったものであると信じて、毎月の振り返りを行いながら「もう少し、もう少し続けられれば…」と支援を継続していました。

しかし、ついたてを動かしたり、後ろを気にしたり、壁やガラスを叩いて注目を集めたりして、食事に集中できないという状況はなかなか改善されずにいました。

### もう一つ気づき

そんなとき、養護学校との懇談会で、Mさんの食事支援について話していたところ、学校では担任の先生が横に座る以外は特別なことはなく、食事にかかる時間が長いわ

けでもなく、他のクラスメイと向き合いながら特に問題なく食事をとることができていたのです。

すぐに足羽学園でも、これまで続けていた支援を取りやめ、学校と同じようにみんなが見える場所で、職員が隣に座って見守るという環境にしてみました。すると、その日からMさん自ら食事を摂れるようになったのです。

Mさん自身もみんなと一緒に食事をしているという実感がわいたのかも知れません。また、みんなが楽しくうに食事をしている姿、一生懸命に食事をしている姿、年長者が年少者をいたわり、食事の介助を手伝っている姿が見えるようになったことで、僕も頑張つて食べようと思いがわいたのかも知れません。はつきりと言えることは、これまでの食事での支援を始めたころと比べ、Mさんのコミュニケーション力やさ



まざまな刺激を受けながらも自分の行動に集中することができるといふことが、培われていたということでした。

私たち職員は、Mさんの以前のイメージに固執するあまり、Mさんの心と体の成長への気付きが浅くなっていたことに、申し訳ない気持ちでいっぱいになりました。

そして、利用者の方の心と体の成長にもっと目を向け、これまでの支援が正しいか否か常に検証し、見直していくことの大切さについて、職員間で再認識しました。

### 成長にあわせる

お家で過ごしているとき、学校で過ごしているとき、足羽学園で過ごしているとき、友だちと遊んでいるとき、一つひとつの場面にいろいろな本人がいます。その全ての場面で利用者の方は着実に成長を続けているのです。

Mさんの現在



開放的な空間で、他の利用者の方と楽しく食事を摂るMさんの姿

家族、学校、職員、その他、利用者の方にかかわる全ての人々が持っている情報から、成長を感じたり、支援のヒント、利用者の方の思いをくみ取ったりすることが出来ます。

その情報一つひとつを見逃がすことなく、利用者の方の可能性を常に探りながら、そのとき、そのときに合わせた最善の支援を考えていきます。

逃がすことなく、利用者の方

## みんなの広場

足羽学園の利用者の方は、日中は養護学校へ行っています。今回は、下校後や休日に行っている余暇活動の一部をご紹介します。

### ぬり絵タイム



いろんな色でぬろっと♪

### 積み木



倒れないように置いて…

他にも、体育館活動でボールやキックボード、縄跳びをして思いおもいに体を動かしたり、フロアで絵本を読んだり、テレビやビデオを見たりします。もちろん、利用者の方同士で仲良くおしゃべりしたり、職員とその日の学校での様子を話したりもしています。

# 二人三脚 これからも共に歩んで



年忘れ会で福笑いをしました。

Tさん(左)

今回は、利用者Tさんの昔の姿を振り返りながら現在の取り組みを通しての成長をご紹介します。

20年以上足羽更生園に勤務している支援員に心に残る思い出を聞きました。

## 「Tさんとの思い出」

Tさんを担当した20年前：その頃、Tさんもまだ若くとも活発でした。活発というよりは、目が離せず、どこに行くにも職員と行動を共に

していたように思います。

ある日のこと、Tさんと私が居室に入るなり、置いてあった百科事典をいきなり天井に投げました。しかし、その百科事典は落ちてこず、天井に突き刺さったままでした。本が刺さるなんてびっくりしました(笑)。

また、消火器を触り、廊下中を真っ白にした日もありました。このときは、Tさんも驚いていたようでした。

今なら笑えますが、そのときは、消火器の粉末の掃除でどうしたらよいのか？と考え込んだことも心に残っています。

そして、食事にいたっては落ち着いて食べることができず、食器を投げたり、お膳をひっくり返したりする日々でした。



出会ってからもう20年です。

担当になった1年目は、どうしたらいいのか毎日悩んでいました。

でも、Tさんは絵本や昔話が好きで、絵本を読んでもらっているときは、とてもうれしそうな笑顔でした。今でも「むかし、むかし」と語りかけると笑顔はあのままです。

## 「やわごころ」

Tさんとお母様の関係は、とても愛情にあふれたものでした。お母様が面会に来られているときは、ずっとそばで穏やかに過ごしており、ときどき、散髪をしていただくのを憶えています。

そんなやさしいお母様の愛情を受けたTさんは、職員が具合が悪いとそばで、じつと心配そうに見守ってくれるやさしさも持っていました。

Tさんの行動に悩まされることもありましたが、そんなTさんのやさしさや笑顔が私を支えてくれました。

(斉藤紀子支援員)

## 「時の流れ」

それから年月が過ぎるなか、Tさんのお母様が他界され、その後、定期的に面会に来られていたお父様も他界されてしまいました。そして、昔からのTさんをよ

く知る職員も、退職や異動で少なくなっていました。

いつの頃からか、あんなに活発だったTさんは、居室にこもるようになり、活動に参加しないようになりました。また、衣類を身につけることも嫌がるようになり裸で過ごすことが多くなりました。

## 「最初の一步」

そこで、現在Tさんが所属するカシオペア寮の職員全員でTさんが「活動の楽しみを知り、豊かな生活を送れること」を目標とした取り組みを開始しました。

まず取り組んだのが、Tさんと職員の信頼関係の構築でした。新人の職員も含め、身近な職員から信頼関係を築けるよう、午前中の活動に参加できるよう声をかけ、活動場所に来れなくても、居室でできることをしながら、Tさんを気にかけてい



るといふ職員の気持ちも伝えていきました。

そして、午後は少しでも居室からフロアに出てこられるよう、Tさんの好きな音楽を聴けるようにしたり、過ごしやすい場所を設けたりしました。また、絵本を読む時間を毎日つくっていきました。

## 「三歩進んで 一歩さがる」

こうした取り組みを続けていくことでTさんと気持ちに通じ合えるようになってきたように思います。そうすると少しずつTさんも職員の促しに応じてくれるようになりました。

まず、衣類を身に着けられるようになり、食事も落ち着いて食べられるようになりました。さらに、活動に参加できるようになりました。しかし、すぐに居室に戻ってしまう、大声を出す、

物を投げることもしばしばありました。



活動の音楽に合わせ笑顔でリズムをとっています。

それでも、参加できたことを「褒める」ことを大事にしながら、活動に参加できた喜びを感じてくれるように、毎日、付き添いながら参加を促していききました。そうした日々を積み重ねていくうちに、活動を楽しむ積極的な姿も見ることができるようになってきました。

Tさんの変化は、私たちに信頼関係の大切さだけでなく、改めていろいろなことを教えてくれるものでした。

あるとき、上司より「今のTさんの様子を、ご両親にも報告できるとよかったですね」と言われました。

この一言は、「いつまでも子を思う親の心を忘れてはいけない」「利用者の方・ご家族のことを思う気持ちの大切さ」を感じさせる一言でした。

利用者の方の豊かな生活への前進が、私たち職員に支援の実りを感じさせてくれ、成長させてくれるものだとは強く感じる経験ができました。

## みんなの広場

### 緑のカーテン



ときは、涼しげな風を感じることができました。

去年の夏が、特に暑かった分、緑のカーテンのおかげでエアコンの使用を減らしたり、冷房の設定温度を下げたりしなくても過ごすことができました。

ゴーヤの実り、朝顔の花のきれいさも楽しむことができ、緑のカーテンは一石二鳥です。

足羽更生園・足羽学園では、エコ活動の一環として、緑のカーテンをつくっています。

平成22年の夏は、ゴーヤと朝顔を育てることにし、5月ごろより苗木、木の枠を準備し、暑い夏に備えました。

打ち水をするより効果的で、木陰の通路を歩く



# 新しい環境の中で得るもの

## Aさんの日常を通して



担当の田中副主任とAさん。1日の振り返りをしています♪

足羽ワーク

センターではサービスの充実と利用者の方が主体的に生活を送られるよう、平成22年4月に女性専用の「ゲルムケアホムさくら」(以後「さくら」と称す)を新設しました。Aさんは「さくら」に転居する前は、男女共同の場で

生活されていきました。そこでは、利用者の方の居室が4人の多床室になっていたり、きめ細やかな支援がいきとどかなかったりという課題がありました。このような環境の中では、Aさんが、身の回りのことを自らやるうとしていたり、自分の思いを表に出そうとしたりする姿があまり見られませんでした。

今回はAさんが「さくら」へ転居してから見られてきた、前向きな姿をご紹介します。

### 転居までの思い

Aさんは引越す数週間前から準備を始めた、自分が引越すことをうれしそうに話されたりなど、さくらに住むことにとっても期待を寄せていました。自分一人だけの部屋で過ごすこと、今までの環境とは違うことなど、Aさんにとってさまざまな喜びがあったのだと思います。

### 自らやる喜び

「さくら」では女性職員が宿直に入るため、Aさんと接する時間が増え、その日の出来事や相談事など、時間をかけて聞くことができようになりました。

職員がAさんの言葉一つひとつに耳を傾けていくこ

とで、その思いを少しずつくみ取ることができるようになっていきました。このことによりAさんが悩みを抱え込んでしまうことも少なくなっていました。

それと同時に、洗濯したり、食事や掃除当番を率先して行ったりなど、Aさん自ら行動しようとする姿勢が増えていきました。

特に、食事当番にはとても積極的で「当番せなあかんや！やるわ！」という言葉が出てくるようになりました。また、他の利用者の方が体調の悪い時には「拭くわ！」と言って、その方に代わって台拭きのお手伝いをしてくださる姿も見られるようになりました。

Aさんからは「自分ができることは、できるだけ自分でやろう！」という強い気持ちも伝わってきます。



よし！頑張るぞ！

一方、自分一人では難しいと思うことは、職員や仲の良い利用者の方に手伝ってほしいことを伝えてくれます。これらは生活の場だけではなく、仕事の場でも見られるようになっており、Aさんの積極的な姿は広がりつつあります。

Aさんは、自分の行動を人一倍褒められると、さらにやる気を出される方なので、職員は、Aさんのやる気を向上させるために「褒めること」を大事にしています。自ら行っ



たことを褒めることによつて、Aさんは喜びを感じ、いろいろなことへの挑戦につながっているようです。

## 伝わる喜び

とても愛きようのあるAさんは、他の利用者の方から必要以上に世話をやかれたり、かかわりを求められたりすることがあります。

そのため、求めている以上のことをされてしまうと、気分を損ね大声を出し興奮してしまうことがあります。そのような場合は、職員が間に入り、本人の思いを受け止めた上で、相手の利用者の方にAさんの思いを代弁していくことを繰り返してきました。その積み重ねによつて、他の利用者の方も今まで以上にAさんのことを理解され、今で

は、お互いほどよい距離を保ちながらいい関係性ができつつあります。

また、Aさん自身も、自分の思いが「伝わった」「分かってもらえた」という経験が増えていったことで、自分の思いを「頑張つて伝えよう！」という思いが行動や言葉に表れてくるようになりました。



Bさんがお手伝いしてくれます☆ Bさん(左) Aさん(右)

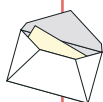
## 秘められた力

「さくら」に移ったことがきっかけで、Aさんの内に

秘められていた『自分の役割を自ら率先して行おうとする力』『他の利用者の方を思いやる力』『気持ちを伝える力』が徐々に開花されてきています。

本来の力を発揮しつつあるAさん。今回、Aさんの日常を追うことで、利用者の方々が新しい環境の中でいるいろいろなことにチャレンジしながら日々成長し、たくさんの喜びを得られていることに改めて気付かされました。

利用者の方が主体的に生活していけるように、利用者の方と日々丁寧に向き合い、利用者の方が安全で・安心して暮らしていけるような場の提供に今後とも努めていきます。



## みんなの広場

### 足羽ワークセンター 行楽だより

去年も足羽ワークセンターではさまざまな催し物が行われました。利用者の方もたくさん参加していただき、たくさんの笑顔が見られました。



☆カヌー教室☆

あわら市にて地元のカヌークラブの方々と一緒にカヌー体験を行いました。

☆県議会食堂ツアー☆  
県議会食堂あすわにて利用者の方とお食事をしてきました。



☆研修旅行☆

毎年恒例の研修旅行。今年は4班に分かれ、京都、奈良、大阪にいつてきました。



# いくつになっても前向きに

## 「今日がいちばん若い日」

日々の生活の中で「もう若くないから…」「今さら年や

で…」という言葉が、ついポロリと口からこぼれたり、聞かれたりします。

ある日、ふと開いた本に**今日がいちばん若い日**という素敵な言葉を見つけ、とても大きな感動を受けました。

確かに誰もが皆生まれてから一日一日、昨日よりも今日、間違いなく年をとっていきます。

それでも少し見方を変え、これから先、歩む人生に目を向けたとき、明日よりも今日、誰もが皆**今日がいちばん若い日**なのです。そう考えるだけで、なんだかとても元気が出てきます。

そこで、愛全園の中でも毎日前向きに、元気に頑張って

いらっしやる利用者の方をご紹介します。

### お化粧でキリリ!



Aさん(93歳)は、朝ロビーに出て来られると、まず化粧ポーチを取りだします。

そして、鏡に向かって髪をとかし、ファンデーションを念入りに塗り、口をまあるく開いて赤い口紅を引きます。次にまゆげみ：と

一つひとつ慣れた手つきで丁寧にお化粧をされます。

途中、鏡に映る自分の顔を何度もチェックし、そしてついに完成。「ベッピンさんになりましたね。」



キレイに決まったでしょう。

の言葉にとびつきりの笑顔でニッコリ。お化粧で気持ちもキリリ!

今日もAさんのいちばん若い一日が始まります。

ご家族の話によると、Aさんは若い頃からお化粧を欠かしたことがなかったそうです。「化粧をしない

いと気持ちが悪く、シャンとした。」「と言われ、お化粧にはこだわっていらっしやうたそうです。

気持ちは今も昔と変わらず、若い頃のままのようです。

### 筋肉モリモリ!



Bさん(73歳)は、車椅子を使用し生活していらっしやいます。

1階の訓練室に下りてこられると訓練用の滑車を両

手でガシツとつかみ「イチチニイ、イチツチニイ」と両腕を鍛えることに余念がありません。

「毎日、頑張っっていらっしやいますね。あまり無理をなさらないように。」と言うと「ありがたい。ほやけど腕だけでもしつ

かり鍛えておかんと。」「と、いつも笑顔で答えていらっしやいます。

日ごろの訓練の成果もあり、Bさんの両腕は筋肉モリモリ。黄金の腕!?!は努力のたまものです。

昔、仕事でトラックの運転をし、重い荷物を運んでいたことをときどき話して下さいます。トラックから車椅子には変わりましたが、鍛えあげた両腕で車椅子をこぎ、今日も力強く前進です。



今日もイチツチニイ頑張るぞ。



## 現役バリバリ!



人一倍お手伝いに精を出されるCさん(84歳)は、デイサービスを利用していらつしやいます。

愛全園の裏手で、利用者の方が畑を作っていて、野菜の収穫時にはCさんの出番です!!

むぎわら帽子をかぶり、ハサミを持ってさつそうと畑の中へ…。

楽しそうに、そして手際よく野菜を収穫。表情は、とれたて野菜よりも生き生きしています。

職員が「いつもありがとうございます。と声かけすると、「いいの、いいの。百姓の家やったで、小さい頃から手伝いはしていたんです。」と笑顔で返されます。



どれが美味しそうかしら。

Cさんは、新潟で生まれ育ったそうです。ご主人と息子さんの介護をし、お二人を亡くされた後は一人暮らしとなり、家庭での役割・達成感もなくされてきたようです。

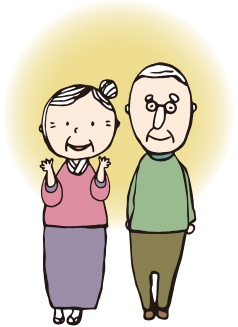
デイサービスを利用されるようになって、再び自分の役割を見つけ現役復活。今日も現役バリバリ! 積極的にお手伝いをされる姿に、優しさがあふれています。

「もう若くないから…」「今さら年やで…」という言葉は、Aさん、Bさん、Cさんにとって無縁のようでした。それどころか、いつも若々しく、前向きに生きていらつしやる姿には頭が下がりました。

また、毎日立ち止まることなく一つのことを続けていくことがとても大切で、それがお一人おひとりの生きる力。前進する力につながっていることを強く感じました。

気持ちが後る向きになりそうになった時は、50歳の人も、70歳の人も、90歳の人がだつて、**今日がいちばん若い日**と心の中でつぶやいて…。

さあ、今日もそれぞれのいちばん若い日を前向きに進んでいきましょう。



## みんなの広場 ～足羽福祉会のエーストライカー!!～

足羽福祉会のサッカー好きの職員が集まり、サッカーのワールドカップのテレビ観戦をして盛り上がりました。それがきっかけとなり、“メンバー全員が楽しむこと”をモットーにフットサルのチームを結成しました。チーム名はメンバー8人の頭文字をとった『thinkty<sup>2</sup>』です。

練習日はメンバーの勤務を確認しながら決め、月2回練習に励んでいます。

共にボールを追いかけられているうちにメンバーの団結力が強くなってきているのを実感することができます。“プライベートの充実は仕事による影響を与える”という言葉があるように、この団結力を仕事に活かせればという思いもあります。(メンバー/愛全園・黒田)



メンバーそれぞれがリフレッシュし、親睦を深めていけることは素晴らしいことではないでしょうか。いろんな場面のみんなの今後の活躍を期待したいですね。

# 今までの暮らしをこれからも

— あなたらしい心地よい暮らしとは



足羽利生苑は平成22年7月に、個室・ユニットケアを開設しました。ユニット（入居者の方10人程度の少数数）ケアとは入居者の方とその人らしい暮らしを安心して送るために、一人ひとりの生活を大切にす家庭的ケアです。

『介護が必要な状態になっても、今までの暮らしを継続できること』を念頭におき、入居者の方がいつまでも自分らしく生活できる環境づくりの充実に向けた取り組みが始まりました。

## 就寝



自分の好きな時間に床につく。眠れないときはホットミルクを飲んだり、夜食を摂る。

## ☆Mさんの心地よい一日の過ごし方☆

一日の流れの中心は入居者の方です。職員が入居者の方の暮らしに寄り添い、一緒に生活します。



**Mさん**  
お話好きで洋裁が得意

## 食事&家事



起きたいときに起き、食べたいときに食べたい場所で、食べたいものを食べる。調理も行い、後片付けもする。

## 入浴



好きなタイミングで職員とマンツーマンにてゆっくりと入浴する。Mさん愛用のシャンプーやタオルを使用。

## 余暇活動



調理レクや知人との会話を楽しんだり、買い物に出かけたりもする。また自分の部屋で手芸や日記を書いて自由に過ごす。



# いごちのよい『家づくり』をめざして…

## 「家庭的ケア」

Eさん(3階・なつめ)

朝食の匂いに誘われて…お部屋から出て笑みをうかべ、「お腹すいた」と全身で表現されます。これがEさんの一日の始まりです。好きなラジオを聴いたり、みなさんや職員と冗談を交えて楽しくお話をされています。夕食の時には晩酌をするのが楽しみです。EさんがEさんらしく過ごされるよう、スタッフが丸となってかわりを持ち、思いを受けとめていきたいと思えます。

介護職員 伊藤 理恵



## 「その人らしく暮らす」

Sさんご夫妻(2階・かりん)

今まで使っていた家具や置き物に囲まれて、自宅での暮らしをそのままの形で続けています。奥様は「主人はとも器用な人だし、こんなものが好きなのよ」と教えてくださり、ご主人への愛情がひしひしと伝わってきます。またチラシでくずかごを作り、自分たちのできることを熱心にされています。私たちも温かく見守りながら、ご夫婦の生活を支援していきたいと思えます。

介護職員 清水 弥生



## 「安心して暮らす」

Fさん(3階・なつめ)

にこやかでゆったりとした雰囲気の中、Fさん。入居当時、時々不安を訴えられましたが、今では一緒に家事を手伝ってくださいます。娘様は介護の研修に参加されたり、一緒に外出・外泊されたりと、Fさんへの温かい思いが伝わってきます。娘様と職員がコミュニケーションを図ることで、Fさんの穏やかな日々への支援ができています。これからもゆつたりとした時間の流れの中で、信頼関係を築いていきたいと思えます。

介護職員 西野 舞子



ユニットケアは2階(かりん)・3階(なつめ)の各フロアで構成されます。そこでは、みなさんどのように過ごされているのでしょうか。また職員はどのような思いをもって寄り添っているのでしょうか。

## ユニットの 前進に向けて

平成22年7月に開設してから、入居者の方も職員も徐々にユニットでの生活になれ、ようやく落ち着いてきました。戸惑うこともまだまだ多くあります。「どうしたら楽にいたただけるだろう」「その人らしい生活を続けていたかどうかには何が必要なのだろう」と日々試行錯誤を繰り返しています。これまでの暮らしを続けていくには、地域とのつながりが重要です。足羽利生苑ではこのつながりを絶やすことなく『地域に開かれた施設』として地域交流に今以上に取組んでいきたいと考えています。そして地域の方々が、足羽利生苑を身近に感じていただけるように、職員一同目標に向かって前進していきたいと思えます。

## みんなの広場

足羽利生苑には、苑内の環境整備を目的とする宮継係があります。取り組みの一環として、全職員対象にエコにまつわる標語を募集しました。この標語を掲示することで、職員一人ひとりの省エネに対する意識を高めることが目的です。とてもユニークな応募があったので、紹介します。

エコすると

めっちゃエコト

あるかもね

介護職員 荒川 奈穂さん

蛍光  
けいこう灯

こまめに消して

いいけいこう

介護職員 菅井 周一郎さん



がジャラが得意な菅井さん♪

楽しい標語で、省エネも期待できそうです♪

# 愛のささえ

## ご協力ありがとうございました

平成22年8月1日から平成22年11月30日までの方々を掲載させていただきました。

- 【本部】**  
(寄付・寄贈) 財団法人教育福祉財団 福井キャンパス事務機(株)  
(ボランティア・交流・訪問) 米田光紀 大空ひとみ
- 【足羽東保育園】**  
(ボランティア・交流・訪問) 橋詰弘志 室谷桃子 清水留美子 やまびこ合唱団 大島幸子 上文殊 幼稚園 上文殊公民館 ミニ交通公園 南警察署 県立図書館  
(研修・実習・見学) 金沢大学
- 【足羽学園・足羽更生園】**  
(寄付・寄贈) 国際ソロフチミスト福井 清水歯科 医院 福井漬物 竹村勉 藤巳会 木倉定子 竹澤勇  
(ボランティア・交流・訪問) キリスト教婦人部 連合福井 NT T労働組合 アイビー医療福祉専門学校 仁愛女子短期大学 日産労働お話キャラバン「つばさ」 日産労働NPOセンター「ゆうらいふ21」 福井寿司研究会「越前会」 司厨士協会 福井養ライオンズクラブ 竹村勉 田中恵子 佐々治真由佳 西田愛貴 青柳美咲 坂部彩季 大橋寛孝 渡辺隆 清水岩男 古市典夫 木原茜 伊戸桂子 江川麗子 三吾尚子 大杉キクエ 越野紀子 新町ふさえ 増田花子 中谷まゆみ 大谷秀樹 山本和由 宇都宮理恵 吉村泉美 吉田麻美子 西田千宏 坂下まゆみ 黒田侑芳 山田泰蒼 中村直人 水島俊幸 生部寿太鼓 酒生民謡クラブ 藤巳会 チアリーディングチームWENDYS 入場佑樹 柴田美華 徳山裕美 寄嶋梓
- 【愛全園】**  
(寄付・寄贈) 順化地区社会福祉協議会 花キュービッド協同組合福井支部  
(ボランティア・交流・訪問) 啓蒙保健衛生推進員 啓蒙ボランティア 啓蒙民踊クラブ 福井農林高校 東新保なかよし会 福井市赤十字奉仕団 小木大正琴クラブ 斎藤さよ子 花亀会 山岡玲子 樋口のり子 太田美代子 小木孝子 本多春子 奥村美枝子 有田美美子 中嶋安子 坂本幸子 滝波博純 渡辺邦太 藤田侑奈 高澤比和 村山知美 熊谷三和子 橘静枝 鈴木陽子 東賢志郎 木村明日香 園井美保 西津可紗 与那嶺慧利子 本多良平 亨みゆき 酒井佳奈子 木米桃子 門前雄太 福井農林高校 福井医療福祉
- 【足羽福祉センター】**  
(寄付・寄贈) マエタセイカ(株) 渡辺冷凍食品 安田かまぼこ 福井漬物  
(ボランティア・交流・訪問) 高村智子 松原智子 畑節代 福井ロータリークラブ  
(研修・実習・見学) 福井県立嶺北養護学校 福井大学地域科学部付属特別支援学校 福井県立盲学校福井養護学校 福井県立ろう学校 福井県立大学 福井大学 福井医療福祉大学県立広島大学 仁愛大学 仁愛女子短期大学 近畿医療福祉大学
- 【愛全園】**  
(寄付・寄贈) 順化地区社会福祉協議会 花キュービッド協同組合福井支部  
(ボランティア・交流・訪問) 啓蒙保健衛生推進員 啓蒙ボランティア 啓蒙民踊クラブ 福井農林高校 東新保なかよし会 福井市赤十字奉仕団 小木大正琴クラブ 斎藤さよ子 花亀会 山岡玲子 樋口のり子 太田美代子 小木孝子 本多春子 奥村美枝子 有田美美子 中嶋安子 坂本幸子 滝波博純 渡辺邦太 藤田侑奈 高澤比和 村山知美 熊谷三和子 橘静枝 鈴木陽子 東賢志郎 木村明日香 園井美保 西津可紗 与那嶺慧利子 本多良平 亨みゆき 酒井佳奈子 木米桃子 門前雄太 福井農林高校 福井医療福祉
- 【足羽利生苑】**  
(ボランティア・交流・訪問) 福井市赤十字奉仕団 松宮あさ子 村西ふじ子 賀川美智枝 本多幸雄 児玉美子 乗竹洋子 高橋雅子 鈴木子 宇都宮友美 丸山美枝子 鍋島笹代 吉野隆春 齊藤一彦 田中美樹 江川夏美 小林慶由 永谷大輔 貴志伊純 梯洋枝 上木隆子 南山堂薬局 はらめスイスイクラブ 仏教婦人会足羽組 オカリーナポルテ  
(研修・実習・見学) 福井南高校 福井工業大学 日本福祉大学 アイビー医療福祉専門学校 福井大学医学部 啓新高校



(財)保堂会教育福祉財団 車椅子寄贈

- 専門学校 剣詩舞会 はらめスイスイクラブ  
(研修・実習・見学) 福井農林高校 福井県立看護専門学校 福井県自治研修所 福井医療福祉専門学校 大東中学校 京都光華女子大学 福井工業大学 仁愛大学
- 【足羽利生苑】**  
(ボランティア・交流・訪問) 福井市赤十字奉仕団 松宮あさ子 村西ふじ子 賀川美智枝 本多幸雄 児玉美子 乗竹洋子 高橋雅子 鈴木子 宇都宮友美 丸山美枝子 鍋島笹代 吉野隆春 齊藤一彦 田中美樹 江川夏美 小林慶由 永谷大輔 貴志伊純 梯洋枝 上木隆子 南山堂薬局 はらめスイスイクラブ 仏教婦人会足羽組 オカリーナポルテ  
(研修・実習・見学) 福井南高校 福井工業大学 日本福祉大学 アイビー医療福祉専門学校 福井大学医学部 啓新高校

**「働きやすい職場環境」の構築に向けて**

足羽福祉会では、平成21年6月より継続して職場風土改革促進に取り組んでおりますが、今年度は特に男性の育児参加を推奨しております。

昨年6月30日の育児・介護休業法改正に先立ち、当法人では6月1日付で子どもの看護休暇制度の拡充、介護休暇制度の創設など、就業規則(育児・介護休業等)に関する規程を変更し、運営しております。

理事長 高村昌裕

発行所

社会福祉法人 足羽福祉会

足羽東保育園・足羽学園  
足羽更生園・足羽ワークセンター  
愛全園・足羽利生苑

〒910-2178 福井市榎野町20-7  
TEL(0776)41-3108/FAX(0776)41-3199  
http://www.asuwafukushikai.jp

発行責任者 高村昌裕

---

**編集後記**

- 初めて原稿を書き、広報誌ができるまでの過程を知りました。じっくり読んでいただけたらうれしいです。 大島(保)
- 今年もやるぞ!!何をかは秘密♥ 杉本(学)
- 今年も、風邪をひかないように、手洗い・うがいをしましょう。 吉野(更)
- 寒い時期が続きますが、心は暖かく今年も過ごします。 松井(ワ)
- 今年も仕事と家庭と両立を心がけ前進したいと思えます。 栗波(愛)
- 今年も公私共に、笑顔で前向きにがんばります。 羅川(愛)
- 一年があつという間に過ぎ、あつという間に白髪が増えました。 三上(利)
- 今年「前田」は変化します☆乞うご期待!! 前田(利)
- 今年は無年。ウサギにちなんで足羽福祉会も「飛躍の年」にしましょう。 蟻塚(本)
- この紙面が、あなたの「心のしおり」になれば幸いです。 江守(本)

※誌面の写真・氏名についてはご本人(または法定代理人)の同意を得て掲載しています。